

## 新たな成長エンジンの創生

執行役専務

田井 一郎



東芝グループは、“利益ある持続的成長”を経営方針に掲げ、常に将来を見据え、新たな成長のエンジンとなる技術開発に積極的に取り組んでいます。

2008年は、米国の金融システムの破綻に端を発した世界的な経済危機に見舞われ、東芝グループにとってもたいへん厳しい年になりました。この危機を強い意志と実行力をもって乗り越えたいと思います。

世界同時不況のなかで半導体分野も激震に見舞われていますが、苦境にあっても半導体はこれからもイノベーションドライバであることに違いはありません。すなわち“常に成長することが期待できる”半導体は、今後も大規模なイノベーションを生み出す成長エンジンであり続けるでしょう。

一方、地球環境を考えると、“エコ&エナジー”技術の重要性がますます高まっています。東芝グループは、“地球内企業”としてエコプロダクツとエネルギーのイノベーションに全社を挙げて取り組んでおり、この分野で世界をリードできると確信しております。

更に、東芝グループは、デジタル技術を駆使した映像機器などのイノベーションを展開し、多くのお客さまにご愛顧いただける様々な商品の開発を進めております。

東芝グループは、これらを成長エンジンとして資源を集中することによって“イノベーションの乗数効果”を発揮させ、利益ある持続的成長の実現を目指します。

2008年の主な技術成果は、以下のとおりです。

- ・ 43ナノメートル微細加工技術を用いた大容量16 Gビット(多値)NAND型フラッシュメモリを開発
- ・ 沸騰水型軽水炉(BWR)と加圧水型軽水炉(PWR)のそれぞれの原子炉技術を相互に適用した次世代原子炉の概念を構築
- ・ ハイブリッド自動車用に、耐久性と安全性に優れた高出力性能の新型二次電池 SCiB<sub>TM</sub>を開発
- ・ 業界初の100 Wクラスの高出力電球形LEDビームランプ E-CORE<sub>TM</sub>を開発
- ・ 世界で初めて再構成型超解像技術 レゾリューションプラス<sub>TM</sub>をハイビジョン液晶テレビ“レグザ(REGZA<sub>TM</sub>)” ZH7000シリーズに搭載
- ・ 世界で初めてメディアストリーミング処理プロセッサ SpursEngine<sub>TM</sub>をAVノートパソコン Qosmio<sub>TM</sub> G50/F50に搭載

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしました。ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸いです。